

# 農園便り 10月号 (129号)

2023/10/1

文責 筒口典康

## 最近の関町南3丁目区民農園 33区の様子



8/23 トマト、キュウリ 終る

8/21 サトイモジャングル

8/23 クロタラリア復活

そろそろ、キャベツやハクサイの蒔き時、大根も。でも、とにかく暑すぎます。ニンジンのお花の蕾が出てきましたので、急いで掘り上げてみますと、やったぜ！。乱暴に播いたのに、とにかくいただけるものことができました。

小まいのは、糠漬け……。泥を落として、かじってみますと、甘い！。満足満足、大満足。いずれにしても、蒔かぬ種子は生えずあります。またまた災難。今度は、転んで、鼻頭から出血、驚く。困ったもんだ。(8/28)

## 特集 <完全有機・無農薬栽培の畝作りと管理> 2

### 野菜たちと土中の「湿度」「肥沃度」

※ ↑ ↓ を、実践で、つないでください。

#### 沃地

↑

スイカ  
メロン カボチャ ズッキーニ 大トマト  
トウガラシ シシトウ ピーマン  
チンゲン菜  
トウモロコシ ミニトマト  
玉葱 ネギ  
大根

レンコン クワイ イネ・・・(水没)  
ショウガ セロリ サトイモ ナス  
ミヨウガ クウシンサイ ……  
パプリカ  
キャベツ ハクサイ ホウレン草  
コマツナ  
大カブ

#### 乾燥

モロヘイヤ 大・小ムギ  
ナンキンマメ  
インゲンマメ ソバ  
ツルナ シソ(赤・青)  
ハツカダイコン イチゴ  
サツマイモ ジャガイモ

ゴボウ フキ アキタブキ 湿潤  
ニンジン 小カブ

#### 蔓物野菜の利用

ヤマノイモ、アピオス、オカワカメ、  
ツルムラサキ、インゲンマメ、  
↓ キュウリ、ニガウリ、ハヤトウリ、

#### やせ地

## 植え付けとその後の手入れ

- 1、用意できた畑地に、野菜たちと土の「肥沃度」「湿度」の表の考えに従って、苗を植える。
- 2、同時に、同種の種子を蒔く。 で・・・、収穫期間を長くする。
- 3、水遣りは、早朝あるいは夕方。 乾きぐわいで判断する。 乾かさない。
- 4、追肥用の溝に「糠」などの有機物(肥料)を入れる。 「醗酵菌」等を撒く。
- 5、畝の状態を観察し、「牡蠣殻粉」「草木灰」「苦土石灰」などで、PHを調節する。
- 6、コンパニオン植物の組み合わせを考える。 虫除けハーブなどを利用する。
- 7、マルチは、各種の茎葉を使う。 ビニールは、できるだけ使わない。
- 8、果菜類は早め早めに収穫する。 長く置くと株が疲労する。
- 9、養分不足が出た場合に限って、少量の高度化成肥料(15・15・15)で対処する。 病人に薬を効かせるように。 すぐに有機肥料に戻す。 4年間で1度あった。
- 10、植物たちが弱ってくる前に追い蒔き、新しい苗を捕植する。 植え始めは、本数を少なくする。 移植、捕植、追い蒔きで、収穫期間を延ばす
- 11、とにかく、地表を乾燥させない。 刈草などの有機物マルチをする。 萩や、クロタラリア等のマメ科の植物、茅、トウモロコシ、稲、麦等のイネ科植物がが良い。 笹や竹の若い茎、枝葉も使い目だ。

## 野菜たちと土の「酸度」

土 ステージ	PH 50~70	草	適した野菜・作物
3	70 中性	ハコベ オオイヌノフグリ オドリコソウ ホトケノザ	エンドウ ホウレンソウ ニンニク ナス 大玉トマト ショウガ タマネギ ピーマン 玉レタス キャベツ ハクサイ メロン
	65 微酸性	アカザ シロザ ミミナグサ カラス ノエンドウ レンゲ	多くの作物
2	60 弱酸性	コニシソウ カタバミ ギシギシ オオバコ クローバ	ジャガイモ ラッカセイ サツマイモ サトイモ
	55 酸性	白クローバー スギナ スイバ	※ ※
1	50 酸性	ヒルガオ ドクダ ミ …	※
0	50	イタドリ	※

※ 雑穀(ソバ キビ ヒエ アマランサ …) PH 6.5 ~ 5.5

※ 土ステージ「0」の荒地に生えるススキ クズ メヒシバ ハハコグサ ヨモギは、どんな酸度でも広く生える。

### 中央にとる作業路

小さな貸農園の区画の中央に、幅 60 cm(トレーの幅)の作業用の通路を設ける。深く掘り下げれば、排水が良くなる。一段下げる効果である。時には、穴あけ具で穴をあけて、割り竹を挿しこむ。3か所ほど作ればさらに排水が良くなる。若竹を使うと、1~2年で腐蝕する。

刈草や手持ちの有機物を置く。秋には落ち葉を置いて「糠」を振る。有効菌(麴菌・納豆菌・乳酸菌・酵母菌…)を振る。醗酵堆肥作りをするのである。また農工具、有機肥料、用土などの置き場としても使う。激しく乾燥する時には水を撒いて、保水場所(水溜)にする。狭深の追肥溝と同じように使う。

一段低いので作業姿勢が楽になる。

### 幅狭の深い「追肥用の溝」の効用

- 1、溝に入れる有機物として、「糠」(米店で安価、コメの大袋入りで200円)「オカラ」(豆腐屋、乾燥オカラ有料、生オカラ無料)、「くず煮干」「魚粉」「牡蠣殻」「カニ殻」「落ち葉」「刈り草」「稲・麦の茎葉」「収穫残渣の茎葉」……などの手に入る有機物を置きます。入れます。無料・安価なものも。
- 2、身近に入手できる「菌」を撒く。= 溝に入れる。「麴菌」「納豆菌」「乳酸菌」「酵母菌」… 林地で採取した「しろ」⇒醗酵菌の塊。市販されている「バチルス菌」。有機物の醗酵肥料の菌「醗酵牛・馬糞」「だるま堆肥」(タキイ)、「みのり堆肥」「醗酵鶏糞」…… それらに使われている「菌」を蒔く、植える、置く。= ㄉㄉㄉㄉㄉ。醗酵を待つ=育土する。
- 3、ミミズを入れる。有機物を食べて糞(土の団粒化)を作る。糞の中に放線菌がいる。放線菌は病原のフザリウムなどの菌を溶菌・捕食する。
- 4、野菜たちが肥料不足になると、溝に養分を求めて根を伸ばし、養分を吸収する。病害の発生が少なくなる。  
化成肥料8・8・8で、無理やり肥料を効かせる考え方ではない。養分を求めて、根を伸ばして、自ら取りに行くようにする。
- 5、溝の保水効果。マルチの効果も考えられる。養分・水分の補給庫である。とにかく、野菜たちが良く育つ。
- 6、多様な生物が集まる。土中にはヤスデ、クマムシ、トビムシ、クモ、ハナアブ、ハチたちも。各種のミミズ、センチュウ、トカゲ、カナヘビ、カエル、モグラ。ネズミ。鳥たち。鳥は、虫を捕食し、糞を落とし、帰る。
- 7、水槽を置く。彼らの水飲み場を作る。メダカを入れて「蚊」の発生を防ぐ。

### サトイモ

9月1日、今日も朝から厳しい暑さ。クワイ、イネのコンテナーに、たっぷり水をやります。サトイモ、ナスにも水溜まりができるぐらいに撒く。

サトイモは、もう私の背丈を超えている。芋の収穫は、期待できそうだ。

「石川早生」、「タケノコ芋」。 清瀬の徳農家、松村さんから戴いたもので、親芋は、ハンドボールぐらい大きい。

『こんなに大きい芋なのだから、逆さ植にすると面白いヨ』と。隣の專業農家の尾崎さんが言う。 やってみました。 石川早生芋の生長を楽しんでいる。

「タケノコ芋」＝「京芋」は、芋から茎に伸びる部分がタケノコのように伸びる。皮を被る。 ヌメリが少ない。

サトイモで、かぶれてしまう女房も『これなら、調理し易いワ』と喜ぶ。「荒洗い」してから、チン、で、カブレないヨ』と言う。中々、実行してくれないのが妻の悪い癖。 さて、今年は、どうするのか、見ものである。

上等な「鯉節」、「昆布」を効かせて、「味醂」と「醤油」味。プーンと美味しい香りが・・・漂う。 鳥の挽肉炒めを絡ますと、これも合いますね。 小粒の芋は、汁が無くなるまで煮詰める。 塩味でバターをからめるのも美味しい。 居酒屋メニューの一品だ。

サトイモは、稲作の始まる以前から人々の主食植物として、栽培されてきた。芋と言えば「サトイモ」の事である。 縄文人達の移動と共に入ってきた。

千川上水の岸に4～5年、白い茎の「サトイモ」が自然繁殖していた。 農家の尾崎さんの畑から転がり落ちたものが、芽吹いたものでありましょう。 今は生えていないところを見ると、冷え込むと、越冬できないのでありましょう。

発泡スチロールの箱に、籾殻燻炭をいれて、「芋」を冬越しさせている。 2～3週間たったら、様子を見て「水」を補充する。 毎年、自給している。

サツマイモも秋に「芋」を鉢に挿し木して越冬させて自給している。 サツマイモの方が低温に弱い。 12℃は必要である。 苦しいところである。



8/26 サトイモと、鉢植えのサツマイモ。 左のジャングルは、エアポテト、オカワカメ、アピオス、自然薯、インゲン、キュウリ、等の蔓物が大繁殖している。 T、